

河川整備計画の検討に用いる目標流量の設定について〔本川下流区間〕

河川対策の対象流量 (河川改修、貯留施設)	甲武橋地点で 2,900 m ³ /s (H16年23号台風時の甲武橋地点実績流量であり、最低水準)		甲武橋地点で 3,300 m ³ /s (WTで説明した大きい方の流量)		
治水安全度	S57型では1/35程度、H16型では1/13程度		S57型では1/65程度、H16型では1/20程度		
新たな貯留施設の有無	無い場合	新規ダム(本川)が有る場合	無い場合	新規ダム(本川)が有る場合	
検討に用いる 整備計画目標流量 (河川改修の対象流量)	甲武橋地点で 2,900 m ³ /s	甲武橋地点で 2,300 m ³ /s S57型での2,073m ³ /s H16型での2,492m ³ /s を平均化	甲武橋地点で 3,300 m ³ /s	甲武橋地点で 2,600 m ³ /s S57型での2,431m ³ /s H16型での2,726m ³ /s を平均化	
河川改修内容の見直し	天王寺川合流点 (9.4km)より下流	数箇所では局所的な対策が必要であるが、他は現状で対応可能。	改修不要 (現状の断面で流下させることが可能)	工実河床高までの低水路掘削が必要。 さらに、3km付近で局所的な追加対策が必要。	3km付近で局所的な対策が必要であるが、他は現状で対応可能。
	天王寺川合流点～ 一後川合流点(15km)	全区間で、河床掘削が必要。	数箇所では河床掘削を伴わない局所的な対策が必要であるが、他は現状で対応可能。	工実河床高までの河床掘削が必要。 さらに、数箇所では局所的な追加対策が必要。	ほぼ全区間にわたり、河床掘削が必要。
	一後川合流点～ 名塩川合流点 (18.4km)	全区間にわたり、工実河床高からさらに深い河床掘削が必要。	現在実施中である全計河床高までの掘削が必要。	全区間にわたり、工実河床高からさらに深い河床掘削が必要。	工実河床高(全計河床高 - 1.4m)までの河床掘削が必要。
事業費		未 計 算			

流域対策の実施による流出抑制効果量は、この検討ではゼロと置いている。

流域対策の効果量が数値化され、対策に組み込まれれば、これを河川改修の対象流量から減らすこととなる。

新規ダム(本川)の堤体天端高は、S57、H16の両ケースとも上限であるEL.120mとしている。

河川整備計画の検討に用いる目標流量と河道流下能力との対比〔本川下流区間〕

流量 (m³/s)

